

ふう けい き こう
風景紀行
 こんべい
権兵衛トンネル
 20
 木曾森林管理署
 (各署の景勝地等を紹介)

木曾谷と伊那谷を結ぶ 権兵衛トンネル

〔木曾署〕 木曾と伊那は直線で二〇キロメートル程度にもかかわらず、木曾山脈（中央アルプス）に阻まれ交易に制限を余儀なくされてきました。

中山道は江戸時代には、東海道のバイパスとして栄え、参勤交代などの荷物の取継ぎ人足や旅人も多く、このため米の需要が高く、調達には美濃や松本平から高い米を購入せざるを得なかったと言われていました。

当時から木曾には生活用品である桶、食器など豊富な木製品があり、伊那では米の供給が可能で、これらの交易ができないものかと誰もが考えていたことでしょう。

元禄九年に、旧日義村神谷の古畑権兵衛という人が、権兵衛街道を開削したことにより、物資の交易が可能となりましたが、それとて牛馬がやつと通行できる程度の急峻な山道であり、積雪期の通行

など困難さはつきまといました。

平成十八年二月四日、国土交通省と長野県の施工により待望の木曾・伊那連絡道として権兵衛トンネルが開通となり、交易や文化の交流が促進されるものと、多くの期待が寄せられています。開通から半年が経過し、観光面では入り込み者の増加が報告されています。

トンネル入口から峠方面を見れば、奈良井国有林一五五二林班の造林地が望め、峠付近には、伊那市上戸・中条の農民が米作りのために木曾側から水を引いた水路や流量を測った水枘跡が残っています。

峠から徒歩で二十分の尾根には樹齢二五〇年余の風雪に耐えてきたジャンボカラマツがそびえ、往時の街道の鬱蒼とした感じを彷彿とさせてくれます。



峠に建つ古畑権兵衛の遺徳を讃える石碑

◇アクセス

木曾側からは、国道一九号木曾町日義から東方へ国道三六一号に分岐し伊那方面に向かう。塩尻市から国道一九号を南下すると奈良井より県道を経て至る。伊那市から中央道伊那インターより約1km南に国道三六一号が東西を横切る。



規定以上の水を木曾側へ戻す水枘



新しく開通した権兵衛トンネル